TEAC

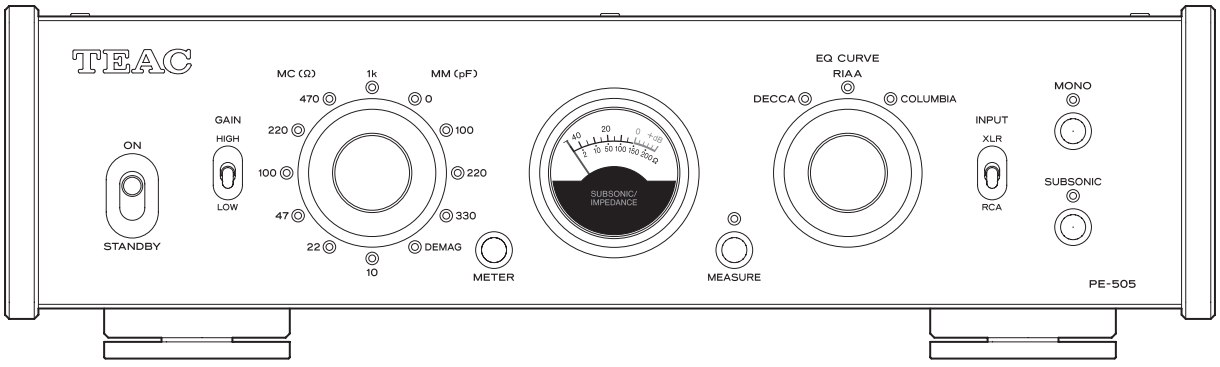
D01369301C

PE-505

フォノプリアンプ

取扱説明書

ティアック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。
末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。



目次

付属品 2

安全にお使いいただくために. 3

お使いになる前に 5
　設置について 5

お手入れ. 5

ユーザー登録について. 5

接続 6
　RCA-XLR 変換ケーブルを使用した
　MC カートリッジのバランス接続について. 7
　RCA-XLR 変換ケーブルの例. 7

各部の名前とはたらき. 8

基本操作. 9
　電源をオンにする 9
　電源をスタンバイにする 9
　負荷インピーダンス設定 9
　MC カートリッジのインピーダンス測定 9
　簡易消磁機能の使い方. 10
　オートパワーセーブ機能 10
　各種設定を工場出荷時の設定に戻す. 10

困ったときは 11

仕 様. 12

保証とアフターサービス 13

XLR ケーブル接続図. 14

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。

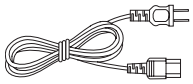


適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

付属品

万一付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店、または弊社 AV お客様相談室 (裏表紙に記載) にご連絡ください。

電源コード ×1



フット用クッション ×3
取扱説明書 (本書、保証書付き) ×1

記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

⚠ **警告**	**以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
 電源プラグをコンセントから抜く	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは** **機器の内部に異物や水などが入ったときは** **この機器を落としたり、カバーを破損したときは** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に修理をご依頼ください。
 禁止	**電源コードを傷つけない** **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない** コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター(裏表紙に記載)に交換をご依頼ください。
	付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し(3cm以上)離して置く **ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける** すきまをあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
 指示	**電源プラグにほこりをためない** 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的(年１回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
 禁止	**機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない** 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。

⚠ 警告

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 分解禁止	**この機器のカバーは絶対に外さない** カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご依頼ください。
	この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

 電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続ケーブルを外す** ケーブルが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります
	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入は、漏電や感電の原因となることがあります。
 指示	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する** **また、接続は指定のケーブルを使用する**
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
	この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障・火災・感電の原因となります。
 禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
 禁止	**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない** 感電の原因となることがあります。

お使いになる前に

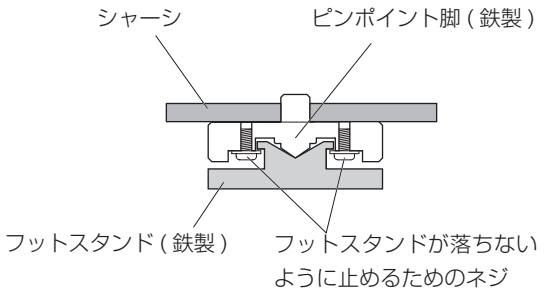
⚠ 設置の注意

- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。変色や変形、故障の原因となります。

設置について

本機の底板には、高精度の鉄製ピンポイント脚が強固に取り付けられています。

フットスタンドはぐらついた状態になっていますが、設置するとピンポイント支持になり、振動を効果的に分散させます。



- 付属のフット用クッションは設置時に設置面を保護するためのものです。フットスタンドの裏側に貼ってお使いください。

お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。
化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

ユーザー登録について

TEAC のウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

https://teac.jp/jp/login

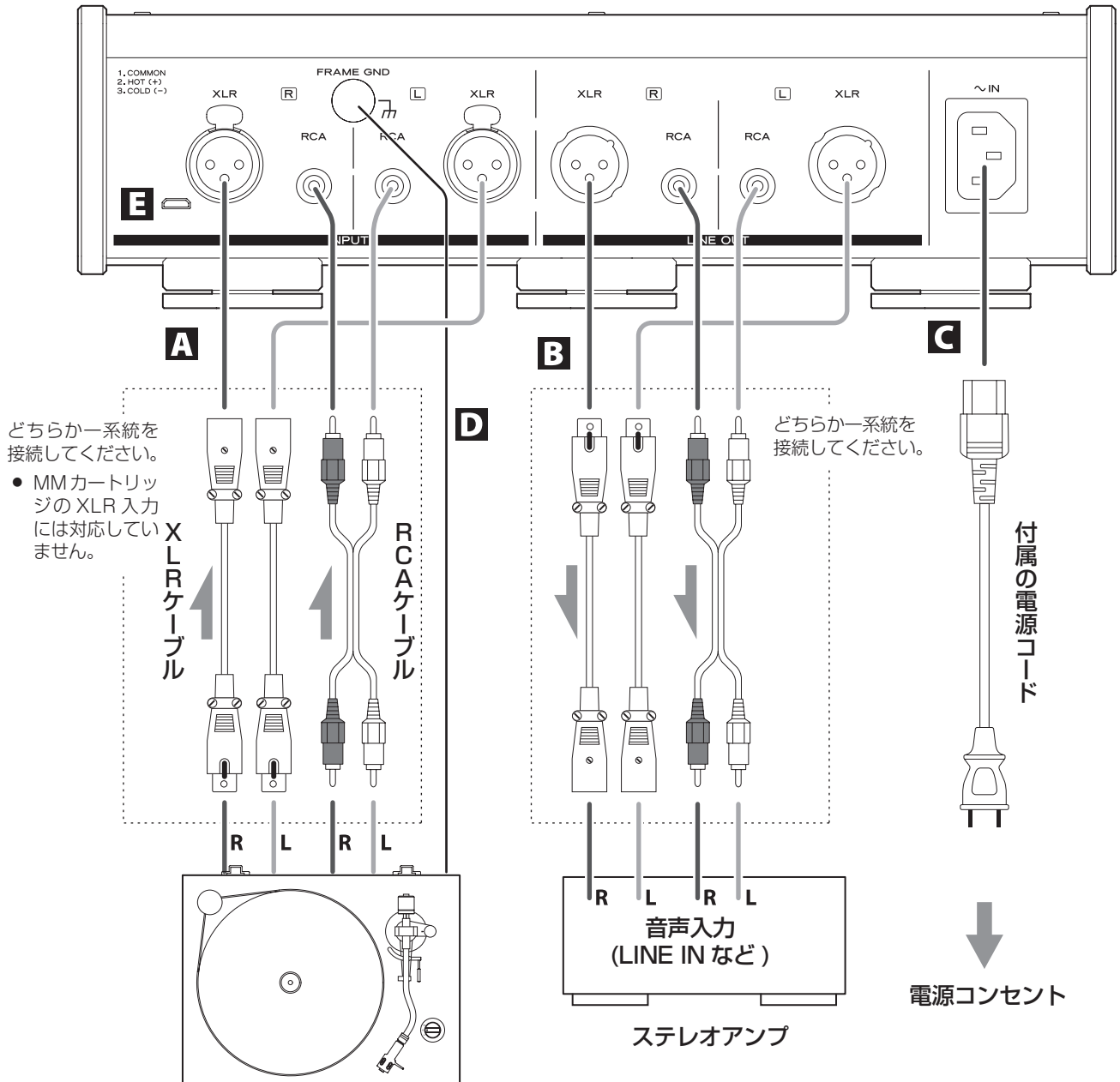
愛情点検

電源コードや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
5 年に 1 度は、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) に内部の点検をご依頼ください。費用についてはお問い合わせください。

接続

⚠ 全ての接続が終わってから電源をオンにしてください。

- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
- ノイズ発生の原因となるため、各接続ケーブルを電源コードと一緒に束ねないでください。
- 各プラグはしっかりと差し込んでください。



入力	出力	MC	MM
XLR	XLR	○	×
	RCA	○	×
RCA	XLR	○	○
	RCA	○	○

○：対応　×：非対応

メモ

MM カートリッジは XLR 入力端子に対応していません。

A フォノ入力端子 (INPUTS)

アナログターンテーブルの音声出力を接続します。

- MM カートリッジの XLR 入力には対応していません。

オーディオケーブルでアナログターンテーブルと本機の R 端子同士、L 端子同士を接続してください。

接続には以下の市販のケーブルをお使いください。

XLR : XLR ケーブル
RCA : RCA ケーブル

B アナログ音声出力端子 (LINE OUT)

音声を出力します。

アンプの音声入力端子 (LINE IN など) と接続してください。

接続には以下の市販のケーブルをお使いください。

XLR : XLR ケーブル
RCA : RCA ケーブル

- 本機のアナログ音声出力端子をアンプのフォノ入力端子に接続しないでください。必ずライン入力端子に接続してください。

C 電源インレット (～ IN)

付属の電源コードを差し込んでください。
全ての接続が終わったら、電源プラグを AC100V の電源コンセントに差し込んでください。

⚠ 付属の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

D グランド端子 (FRAME GND)

アナログターンテーブルの音声出力ケーブルのグランド端子を接続します。
アンプともグランド端子を接続すると、音質が良くなることがあります。

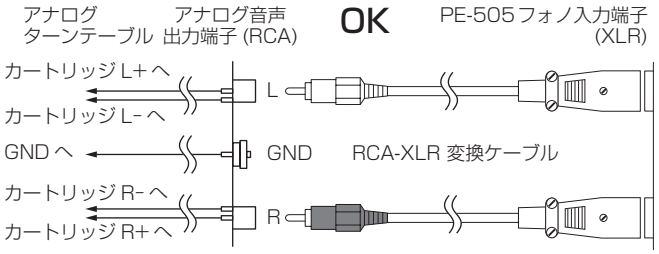
- 安全アースではありません。
- アナログターンテーブルのグランド端子を接続しないと、ハムノイズ (ブーンという雑音) の原因となることがあります。

E メンテナンス用端子

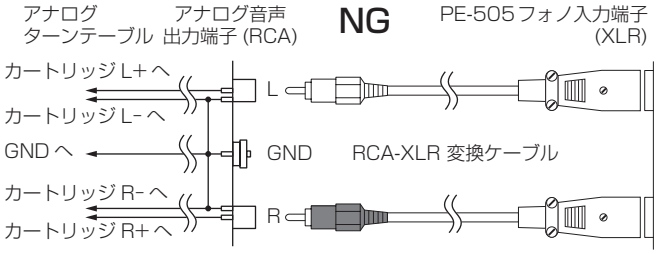
メンテナンスで使用します。弊社サービス部門の指示が無い限り、何も接続しないでください。

RCA-XLR 変換ケーブルを使用した MC カートリッジのバランス接続について

RCA-XLR 変換ケーブルを使用して、MC カートリッジバランス接続を行う場合、本機に接続するアナログターンテーブルは、カートリッジの「−」とトーンアームの GND がアナログターンテーブル内で接続されていない機種または L/R の「−」が分離されている機種でご利用下さい。

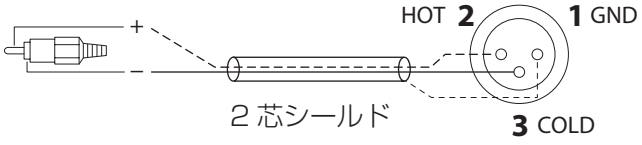


アナログターンテーブル内で L/R の「−」とトーンアームの GND が接続されていると、ハム音が聞こえる場合があります。



- アナログターンテーブル内で L/R の「−」とトーンアームの GND が接続されている機種では RCA-XLR 変換ケーブルを使用してもハム音は小さくならない場合があります。
- フォノイコライザーアンプ内蔵のアナログターンテーブルとの接続時にはアナログターンテーブルのフォノイコライザーアンプ出力をオフにして使用してください。

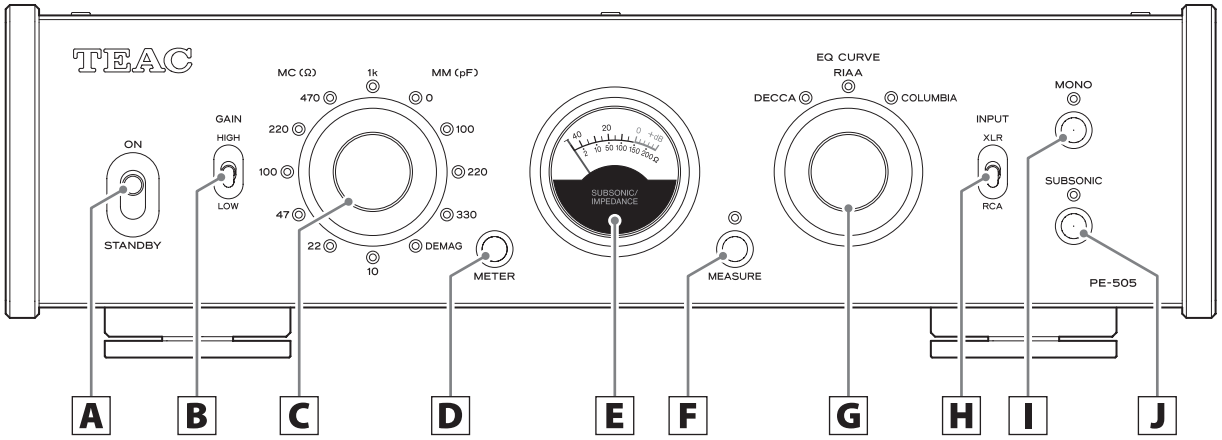
RCA-XLR 変換ケーブルの例



注意

RCA のコールドが XLR の 1 番ピンまたは 1 番ピンと 3 番ピンに接続されている RCA-XLR の変換ケーブルは、ご使用いただくことはできません。

各部の名前とはたらき



A スタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON)

電源をスタンバイ / オンします。

B ゲイン切換スイッチ (GAIN)

アンプのゲインを切り換えます。
最初は、LOW に設定して音量を確認してください。音量が小さいときは、HIGH に切り換えてください。LOW に比べて HIGH は 12dB ゲインが高く出力されます。

C インピーダンス切換つまみ

接続したアナログターンテーブルで使用しているカートリッジの種類 (MC/MM) に合わせて、負荷インピーダンスを設定します。(9 ページ)

- 選択しているインピーダンスのインジケーターが点灯します。
- 入力切換スイッチ (INPUT) が「XLR」になっているときに、MM カートリッジの設定は選択できません。XLR 端子は、MC カートリッジ専用です。

D メーターボタン (METER)

ボタンを押すたびに、メーターの明るさが以下のように切り換わります。

明 ➡ 中 ➡ 暗 ➡ 消灯 ➡ 消灯 (メーター停止)

E メーター

サブソニック成分 (6Hz 以下) の音量を表示します。測定中は、MC カートリッジのインピーダンスを表示します。(9 ページ)

F 測定ボタン (MEASURE)

MC カートリッジのインピーダンスを測定します。

- 測定中は、ボタンの上にあるインジケーターが点灯します。
- インピーダンス測定中は、再生音を出力しません。

G イコライザーカーブ切換つまみ (EQ CURVE)

RIAA（ステレオ LP 再生用カーブ）、DECCA (DECCA LP)、COLUMBIA（Columbia LP）から再生するレコード盤に合わせて、自然に聴こえるカーブを選択してください。（9 ページ）

H 入力切換スイッチ (INPUT)

アナログターンテーブルと接続した端子を選択してください。

I モノラルボタン (MONO)

モノラルカートリッジを使用するときにオンにしてください。

- オンになると、ボタンの上にあるインジケーターが点灯します。

J サブソニックフィルターボタン (SUBSONIC)

オンにするとカットオフ 17 Hz − 24 dB/oct のスロープで減衰させます。
そりのあるレコードを再生するときにオンにすると、ウーハーの不要な動きが減少します。

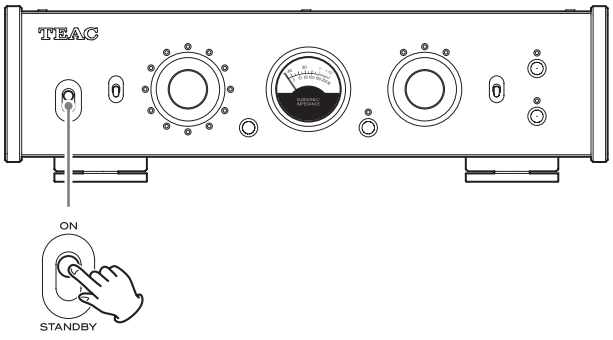
- オンになると、ボタンの上にあるインジケーターが点灯します。

電源をオンにする

1 アンプの音量を最小にする。

電源オフ時に音量を調節できない機器の場合、電源をオンにしてから音量を最小にしてください。

2 本機のスタンバイ/オンスイッチ (STANDBY/ON) を ON にする。



- 測定ボタン (MEASURE) の上にあるインジケーターが点灯していたら、測定ボタン (MEASURE) を押してインジケーターを消灯してください。

3 レコードを再生し、アンプで音量を調節する。

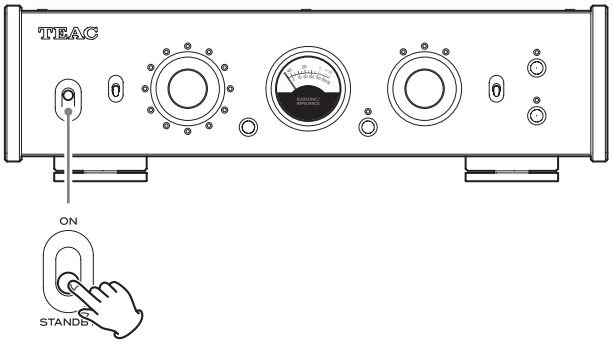
4 再生するレコード盤に合わせて、イコライザーカーブ切換つまみ (EQ CURVE) を操作し、自然に聴こえるカーブを選択する。

電源をスタンバイにする

1 レコードを再生中の場合は、再生を停止する。

1 アンプの音量を最小にする。

2 本機のスタンバイ/ オンスイッチ (STANDBY/ON) を STANDBY にする。



3 アンプの電源をオフにする。

負荷インピーダンス設定

MC カートリッジについて

お使いの MC カートリッジに推奨負荷抵抗 (ロード・インピーダンス) がある場合は、指定値に近い値に設定してください。指定がない場合、より良い音質になる値を選んでください。負荷抵抗が小さいほど音量が小さくなり、負荷抵抗が大きいほど音量が大きくなります。
標準的な負荷抵抗は 100 Ω です。

- 負荷抵抗とは、カートリッジの内部抵抗 (内部インピーダンス、コイルインピーダンス) のことではありません。
- 使用するカートリッジの内部抵抗に対して、十分な大きさの負荷抵抗を選んでください。
- カートリッジの内部抵抗に対して十分な大きさでない負荷抵抗を選択すると、音量が小さくなりノイズが増えることがあります。

MM カートリッジについて

お使いの MM カートリッジの推奨負荷容量がある場合は、指定値に近い値で試してください。指定がない場合、より良い音質になる値を選んでください。

MC カートリッジのインピーダンス測定

1kHz のサイン波を使用して、MC カートリッジの内部とアナログターンテーブルと本機を繋ぐケーブルも含めた経路全体のインピーダンスを測定します。測定で得られたインピーダンスを参考にして、2 倍程度を目安とした負荷インピーダンスで受けるように設定してください。

1 アナログターンテーブルのトーンアームをレコード盤から離した状態にする。

2 測定ボタン (MEASURE) を押してインジケーターを点灯させる。

- メーター動作は、自動で「明」に切り換わります。

3 メーターの下の目盛りからインピーダンスを読み取る。

注意

- MM カートリッジのインピーダンスおよび負荷容量の測定はできません。
- レコード再生中にインピーダンス測定を行わないでください。
- インピーダンス測定中は、再生音を出力しません。

簡易消磁機能の使い方

簡易消磁機能を使うと、帯磁していた鉄芯入りの MC カートリッジや昇圧トランスなどが消磁され、音質がクリアになったり、音の抜けがよくなったりする場合があります。

1 インピーダンス切換つまみを DEMAG の位置にする。

負荷抵抗が 0Ω に設定され、カートリッジの両端がショートされた状態になります。

2 レコードを再生する。

再生信号電流がカートリッジ内を流れ、消磁します。

- 消磁時間の目安は約 30 秒です。
- インピーダンス切換つまみが「DEMAG」の位置では、再生音は出力されません。

3 インピーダンス切換つまみを元の位置に戻す。

イコライザーカーブの特性（時定数）について

RIAA
3180μs/318μs/75μs

Decca (DECCA LP)
1590μs/318μs/60μs

Columbia (Columbia LP)
1590μs/318μs/100μs

- イコライザーカーブには諸説あります。
- 古いレコードを再生する際、ステレオ LP 盤であっても、RIAA カーブで再生してみて不自然に聴こえる場合は、他のカーブをお試し下さい。

オートパワーセーブ機能

本製品には、オートパワーセーブ機能があります。
出荷時の設定はオンです。

オートパワーセーブがオンのとき

約 30 分間操作をしないとスタンバイ状態 * に移行します。
スタンバイ状態のときに本機の操作を行うと、オートパワーセーブが解除され、電源がオン状態になります。

オートパワーセーブがオフのとき

電源は自動でスタンバイ状態になりません。

* スタンバイ状態の消費電力は、0.5W 以下です。

設定の確認方法

オートパワーセーブがオフの場合は、電源オン時に全てのインピーダンスインジケーターがしばらくの間点灯します。

オートパワーセーブ機能の設定

以下の操作をすると、オートパワーセーブ機能のオン / オフが切り換わります。

測定ボタン (MEASURE) を押しながらスタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON) を ON にし、インジケーターが全点灯するまで測定ボタン (MEASURE) を約 3 秒間押し続けます。

各種設定を工場出荷時の設定に戻す

メーターボタン (METER) を押しながらスタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON) を ON にし、インジケーターが全点灯するまでメーターボタン (METER) を約 3 秒間押し続けます。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) にご連絡ください。

電源が入らない

➡電源コードがきちんと電源に接続されているか、差し込みが不完全ではないかを確認してください。コンセントがスイッチ式の場合、オンになっているか確認してください。

➡コンセントに他の電気機器を接続して、電気が供給されているかを確かめてください。

➡オートパワーセーブ機能でスタンバイ状態になっている場合は、いったんスタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON) を STANDBY にして、再度 ON にして下さい。

ブーンというノイズが聞こえる

➡接続ケーブルの近くに電源コードや蛍光灯等がある場合は、本機からできるだけ遠ざけてください。

➡アナログターンテーブルと本機のグランド端子 (FRAME GND) を接続しているケーブルを確認してください。

➡アナログターンテーブルとのグランド接続の有り無しで、ノイズの聞こえ方が変わる場合があります。

音が出ない

➡本機にステレオアンプを接続しているときは、ステレオアンプの音量を調節してください。

➡測定ボタン (MEASURE) の上にあるインジケーターが点灯していたら、測定ボタン (MEASURE) を押してインジケーターを消灯してください。

➡負荷インピーダンス設定を確認してください。(9 ページ)

➡機器の接続をもう一度確認してください。

音がおかしい、音が割れる

➡アンプと接続している端子を確認してください。本機は、アンプの音声入力端子 (LINE IN など) と接続してください。

➡負荷インピーダンス設定を確認してください。(9 ページ)

➡ゲイン切換スイッチ (GAIN) をLOW にしてください。

➡フォノイコライザーアンプ内蔵のアナログターンテーブルを接続している時は、アナログターンテーブルのフォノイコライザーアンプ出力をオフにしてください。

音が小さい

➡負荷インピーダンス設定を確認してください。(9 ページ)

➡ゲイン切換スイッチ (GAIN) を HIGH にしてください。

サーというノイズが多い

➡アナログターンテーブルと接続しているオーディオケーブルを確認してください。

➡MC カートリッジをお使いの場合は、負荷インピーダンス設定により、ノイズの聞こえ方が変わる場合があります。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合はいったん電源プラグをコンセントから抜き、しばらくしてから再び電源を入れて操作しなおしてください。

仕 様

入力

RCA 端子 . . . . . 1 系統 (MC/MM)
XLR 端子 . . . . . 1 系統 (MC 専用)
入力インピーダンス
　MC. . . 10、22、47、100、220、470、1kΩ
　　(設定つまみによる切換式)
　MM 47kΩ
　　負荷容量 . . . . . 0、100、220、330pF
　　(設定つまみによる切換式)

出力

RCA 端子 . . . . . 1 系統
XLR 端子 . . . . . 1 系統
出力インピーダンス
　RCA 端子 63Ω
　XLR 端子 126Ω

オーディオ特性

定格出力電圧
　RCA 出力 2Vrms
　XLR 出力 4Vrms
RIAA 偏差 (20 ～ 20 kHz). . . . . ±0.05dB
全高調波歪率
　定格出力、1kHz、GAIN LOW
　　RCA 入力 (MM) 0.002%
　　RCA 入力 (MC) 0.02%
　　XLR 入力 (MC). 0.02%
残留雑音電圧 (入力短絡、GAIN LOW、IHF-A)
　RCA 入力 (MM) 10μV
　RCA 入力 (MC) 65μV
　XLR 入力 (MC). 85μV
S/N 比 (入力短絡、定格出力、GAIN LOW、IHF-A)
　RCA 入力 (MM) 106dB
　XLR 入力 (MC). 86dB
チャンネルセパレーション (MM、10kHz、GAIN LOW)
　　− 90dB 以上
ゲイン
　GAIN LOW
　　RCA 入力 (MM) 34dB
　　RCA 入力 (MC) 54dB
　　XLR 入力 (MC). 54dB
　GAIN HIGH
　　RCA 入力 (MM) 46dB
　　RCA 入力 (MC) 66dB
　　XLR 入力 (MC). 66dB
サブソニックフィルター . . 17Hz、− 24dB/octave
最大許容入力電圧 (歪率 0.1%、GAIN LOW)
　RCA 入力 (MM) 150mV
　RCA 入力 (MC) 16mV
　XLR 入力 (MC). 16mV

一般

電源 . . . . . AC 100 V 50/60 Hz
消費電力. . . . . 14 W
外形寸法 (W×H×D) . . 290mm×84.5mm×252.5mm
　　(突起部含む)
質量 . . . . . 4.5 kg

付属品

電源コード ×1
フット用クッション ×3
取扱説明書 (本書、保証書付き) ×1

- 仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス

■ 保証書

取扱説明書の裏表紙が保証書になっています。保証書は、お買い上げの際に販売店が所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。保証期間はお買い上げ日より 1 年です。

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を製造打ち切り後 8 年間保有しています。

■ ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) にお問い合わせください。

■ 修理を依頼されるときは

11 ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) にご連絡ください。
なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害 (録音内容などの補償) の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。
測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。
部品代：修理に使用した部品代金です。
その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
その他：製品を送るために必要な送料 / 梱包料などがあります。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：フォノプリアンプ
PE-505
シリアルナンバー：
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況 (できるだけ詳しく)

■ 廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

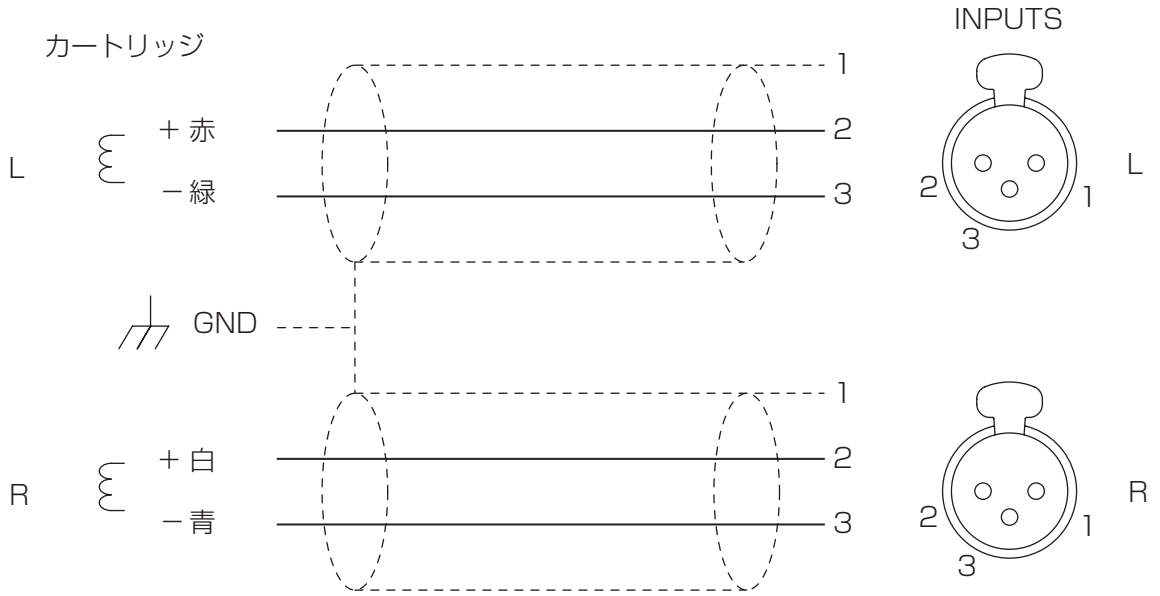
分解・改造禁止
この機器は絶対に分解・改造しないでください。
この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

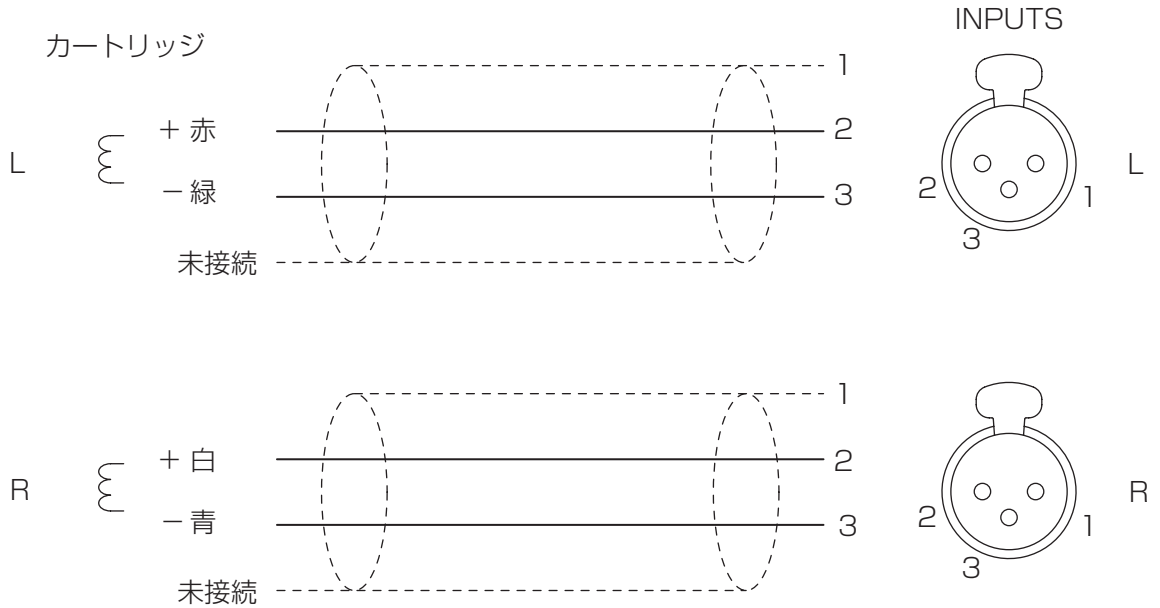
XLR ケーブル接続図

XLR ケーブルを本機で使用する場合は、下記のいずれかの接続でご使用ください。

例 1



例 2



保証書

品名および形名	フォノプリアンプ PE-505	
機番		
保証期間	本体	1年

お買上げ日	年　月　日	
お客様	お名前	様
	ご住所	〒 電話　(　)

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買上げの販売店に修理をご依頼ください。

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

販売店	所在地・名称 (印) 電話　(　)

見本

無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
   無償修理の対象は、お客さまが日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
3. ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
   (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
   (2) お買上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
   (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
   (4) 接続している他の機器に起因する故障および損傷
   (5) 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
   (6) メンテナンス
   (7) 本書の提示がない場合
   (8) 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名 (印) の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの (保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。

※ 保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間についての詳細は、取扱説明書をご覧ください。

ティアック株式会社　〒206-8530　東京都多摩市落合 1-47　https://teac.jp/jp

この製品のお取り扱い等についてのお問い合わせ

AV お客様相談室 〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47

042-356-9235 携帯電話、IP 電話をご利用の場合

0570-000-701 ナビダイヤル® 固定電話をご利用の場合

FAX：042-356-9242

受付時間は、9:30 ～ 12:00/13:00 ～ 17:00 です。
(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障・修理や保守についてのお問い合わせ

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田 858

04-2901-1033 携帯電話、IP 電話をご利用の場合

0570-000-501 ナビダイヤル® 固定電話をご利用の場合

FAX：04-2901-1036

受付時間は、9:30 ～ 17:00 です。
(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

● 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

0426.MA-3047C